

東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント

槍ヶ岳～奥穂高岳縦走記録

日 時：2009 年 9 月 20 日～9 月 22 日

場 所：上高地～槍沢～槍ヶ岳～北穂高岳～奥穂高岳～岳沢～小梨平

メンバー：小沢昭仁(s50)、藤田幸紀(s50)、木村堅治(s50)

白馬岳からスタートしたワンゲル OB 会 50 周年記念山岳リレーも槍ヶ岳にまで至った。今回は最後の主要山域である槍ヶ岳から奥穂高岳までを縦走した。前日までに台風 14 号が南海上から北に抜けたため、天気は快晴に恵まれ、予定通り走破できた。メンバーは昭和 50 年卒の同期 3 名で、テント泊で縦走した。

<9 月 20 日>

上高地(6:20)ー小梨平(7:00)ー徳沢園(8:15)ー横尾山荘(9:10)ー槍沢キャンプ場(11:10)ー殺生ヒュッテ C1(14:40)

沢渡に車を泊めて、タクシーにて上高地に入る。実は今回の山行終了後、直ちに徳本峠越えのトレイルランニングがあるため、途中小梨平にシューズなどを預けた。便利なサービスである。

小梨平を 7:00 にスタートする。天候は快晴で清清しく、途中の明神岳も美しい。3 人の足並みは揃っており、またテント泊ではあるが軽量化を図ったため、およそコースタイムの 2/3 くらいの速度で快調にとぼす。

徳沢園、横尾山荘、槍沢ロッジ、天狗原分岐を経て、殺生ヒュッテに 14:40 に到着し、本日の幕営地とする。槍ヶ岳山荘まで行く選択もあったが、この選択は正しかったようである。今回 5 連休ということで人出が多く、槍ヶ岳山荘のテント設営可能数が少ないために、昨日は折角槍ヶ岳山荘まで行っても、設営できずに殺生ヒュッテまで戻るように指示され、戻ってきたパーティも多いようである。

槍ヶ岳を間近に眺めながら、ビールを飲む。気持ち良い！

<9 月 21 日>

C1(5:45)～槍ヶ岳山荘(6:15)～槍ヶ岳ピストン～槍ヶ岳山荘(7:25)～南岳(9:25)～北穂山荘(13:25)～北穂キャンプ場 C2(14:10)

本日も快晴。朝陽を浴びながら、出発する。30 分程度で槍ヶ岳山荘に到着する。しかし、ここからが時間がかかる。渋滞のためである。槍ヶ岳ピストンに 1 時間 10 分もかかってしまった。ようやく、槍ヶ岳頂上に到着し、360 度のパノラマを堪能する。白馬方面を眺めると、ずいぶんと長い行程を踏破してきたことを実感する。

槍ヶ岳山荘を出発し、南岳ぐらいまでは快調にとぼすが、長谷川ピーク付近でまたも渋滞に巻き込まれる。ナイフリッジのような所を登りと降りのそれぞれ大行列が出くわすの

で、当然ながら時間がかかってしまう。全般的には高度感があり緊張もするが、快晴なので、楽である。難所の飛驒泣きも鉄板でステップが作られていて、楽になっていた。

13:25 に北穂山荘に到着。生ビールがあって、その誘惑に負けてしまう。本日はここにテントを設営することに決め、生ビールを飲む。うまい！

北穂キャンプ場にテントを設営していたら、若いアジア系の女性が英語で声をかけてきた。北丹沢山岳耐久レースのキャンプ場でも経験があるが、単独行の若い女性にとって、おじさん集団は安全に気軽に語りかけられる対象なのかもしれない？ *Do you like beer?* と声をかけると、*Of course!* との返事があり、かくして宴会は始まった。コミュニケーションは英語と漢字による筆談。彼女は台湾出身で、政府のプロジェクトに応募し、日本とフランス（シャモニ）で沢登りと山小屋の研修を受けているとのことである。とにかく明るく活発で魅力的な女性であった。

<9月22日>

C2(5:45)～北穂山荘(6:00)～涸沢岳(8:20)～穂高山荘(8:35)～奥穂高岳頂上(10:00)～前穂高岳分岐(11:35)～岳沢ヒュッテ跡(13:35)～小梨平 C3(15:30)

昨日は18時に就寝したが、その頃から強風が吹き出す。テントがバタバタとゆれているようで、とても寝付けない状況であった。深夜少し風もおさまったが、若干睡眠不足気味である。

天候は霧雨で、視界もきかない。5時45分に出発したが、霧雨から小雨に変わって、風も吹き出し、コンディションはさらに悪くなる。気温も下がっていて、岩肌や時々現れる鉄のハシゴやクサリで、手が冷たい。

難所が続く涸沢岳を越え、穂高山荘で大休止をとり、英気を養う。9時半に穂高山荘を発ち、奥穂高岳頂上に10時に到着するが、視界はきかないので何も見えない。標識をバックに記念写真だけを取り、下山開始する。

前穂高岳を過ぎてしばらくするとガスも晴れ、視界もきくようになった。岳沢を下り、河童橋を経て、小梨平到着 15:30。テントを立てた後、小梨平の風呂に入る。今年夏に広い風呂に改築したとのことで、快適な風呂である。その後の小梨平食堂での生ビールと食事は格別においしかった。

<総括>

台風14号をやり過ごしてから発ち、高気圧が日本全体をおおっていたので、幸運だった。最終日は日本海に前線が停滞し、生憎の天候にはなったが、全般的には天候に恵まれ、予定通り穂高岳まで縦走できた。7月19日にスタートした50周年記念イベントの山岳リレーであるが、約2ヶ月で白馬から穂高まで縦走し、多くの会員が参加したように思う。

今年の経験を来年の南アルプス全山縦走に活かして、イベントを盛り上げられたら良いと思う。

(2009.09.30 記 木村)